

きりえ、大作に挑戦！

～ 表現を広げ、高める選択授業 ～

美術 第3学年
志賀町立志賀中学校・教諭

1 事例の概要

美術科の授業時数の削減により、内容の精選・関連づけ・一体化が求められている。本校では1学年で基礎・基本の習得、2学年では発展課題を、3学年は卒業制作の版画制作を中心としている。必修授業で取り組める作品の大きさは縮小され、題材の数は減らさざるを得ない。そのためか、必修授業では物足りず選択で美術を選ぶ生徒が多い。必ずしも美術が好きな生徒が集まるとはいえない選択授業であるが、本校では美術に意欲的な生徒が毎年多く集まってくる。そこで、選択授業の題材を必修授業の基礎的能力の定着、また表現の幅を広げ高めることに重点を置き取り組んできた。

〈美術科選択時数と題材〉

学年	時数	前年度の必修授業の題材	今年度の選択授業の題材
1学年	30時間	小学校での版画実習	年賀版画コンクールに応募しよう
2学年	35時間	レタリング・色の学習・技法実習	ポスターコンクールに応募しよう
3学年	35時間	マンガをきりえで表現しよう	きりえ、大作に挑戦！

3学年の「きりえ、大作に挑戦！」は、2年生の3学期の題材を発展させたものである。必修授業と違うところは、主体的なモチーフ選びと作品の大きさ、表現を工夫することである。モチーフは学校生活や修学旅行、地域の行事、身近な風景など自分が表現したいもの、心を動かされたものを構図やアングルを意識して写真に撮らせた。下絵の図案作成は重要になるため、安易に妥協せず慎重に検討するよう促した。また、作品の大きさをA3で制作することとし、作品展に応募することを目標に意欲を持続させ、はげまし合いながら取り組ませるようにした。表現の工夫では、様々な彩色方法を知らせるとともに、対話しながら個々の表現に応じたアドバイスを心がけた。

A-1 年間指導計画

2 実践内容

(1) 題材の目標

2年生でのきりえ制作を踏まえ、より主体的に取り組む姿勢を養うとともに表現の幅を広げ、表現の技能を高める。

(2) 指導上の工夫点

① 主体的活動の工夫

- ・授業時間を超えたモチーフの収集活動（放課後・修学旅行・家庭生活など）
- ・下絵の図案決定までの時間確保

② 表現技能を高める工夫

- ・多様な表現の紹介（作品集・生徒作品、彩色方法）
- ・個に応じたアドバイス

③ 制作段階ごとの評価の工夫

B-1 単元ガイダンス

B-2 指導と評価

3 指導の実際

段階	配時	学習内容・活動	指導上の留意点、評価（◇）と支援（◎）
導入	5	1 前時の活動をふり返る。	・作品の進捗を確認する。
展 開	40	2 本時の活動を確認する。	
		効果的な配色や彩色方法を考え、仕上げ方を工夫しよう	
		3 彩色の用具を検討する。 ・台紙に直接絵の具で彩色する。 ・トータルカラーや和紙を台紙に貼る。 ・薄手の紙やトレーシングペーパーに彩色し、台紙に貼る。	◎彩色の用具と方法を知らせる。 ◎机間支援でアドバイスしながら、一緒に検討していく。
		4 配色を考えながら仕上げていく。	◇効果的な配色や彩色方法を検討し、仕上げ方を工夫している。（創造的な技能） ◎自分なりの方法を見つけられない生徒には、先輩の作品や既習の資料等を提示する。
まとめ	5	5 授業の振り返りをする。	・制作を振り返り、仕上がりを確認する。 ・次時の作業の見通しを立てる。

C-1 指導案

C-2 制作手順

C-3 生徒作品

4 成果と課題

(1) 成果

3年生の選択題材でこの題材に取り組み3年目になる。年々モチーフの対象が広がり、「これを表現したい」という生徒の思いや意欲も強くなってきている。根気が要り、時間のかかる題材なので、授業では足りない時間を夏休みや放課後に補い、ようやく完成させることができる。それだけに完成の喜び・達成感は大きい。全員が応募を目標にがんばり、そのうち何名かは高い評価を受けることができ、さらなる自信にもつながった。きりえ表現のおもしろさや魅力を味わいながら、完成度の高い作品を目指す姿勢が身についてきた。

(2) 課題

選択授業はその状況により条件が違ってくるので、時間や内容等を工夫しなければならない。選択してくる生徒はすべてが意欲的な生徒とは限らず、生徒自らが課題を求め活動する授業は現実にはなかなか難しい。しかし、生徒の自主性や表現能力を育て、高めるためにも必修とは違う魅力ある学習内容や活動の多様性を目指し、情報交換しながら今後も題材の工夫改善をしていきたい。また、題材と評価を整合させるよう観点の見直しも検討していかなければならない。